

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和2年度 第4回 A 部会		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年11月30日(月) 午後7時00分から午後9時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、鈴木光義、加門文男、乾美由紀、田中真、三善知子、名木田絢子、赤木牧子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事 A 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

A部会テーマ

「(地域・市民活動に対して、)

やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

本日の進行について

本日は、12月の全大会での提言書(案)について、検討し、作業の段取りをしたい。

市から提案書に必要な項目が例示されている。これをもとに、具体的内容について検討したい。

提案書に必要な内容

- ①部会のテーマ
- ②テーマの説明
- ③検討事項
- ④現状
- ⑤課題
- ⑥解決策の提言案(トラップカードの説明、カードづくり、ワークショップなど)
- ⑦今後3月末までにやること

(1)ワークショップの振り返り(ワークショップ1回目と2回目との違いや、工夫した点について)

◆1回目:さわやか北摂(千の里)

- ・さわやか北摂は、組織がしっかりしていて方向性がきまっているので、困りごとの再認識は必要ないかもしれないと感じた。
- ・ワークショップの時間はたまたま90分にした。あっという間で「もっと時間がほしい」と感じた。

◆2回目:防災士会

- ・鈴木委員のホームグラウンドであるコミュニティのメンバーであったので安心感があった。
- ・偶然、女性と男性グループにわかれた。部会メンバーがグループに入り、トラップカードの表面の求める人材像のイメージを考えていた。そのうちに、防災の避難訓練に人を集めたいという話になって、そこから一気に加速して盛り上がった。トラップカードづくりまでには至らなかったが、防災士会の悩みやA部会の第三者の意見などもすべて書き出して、その意見を付箋に書いて

整理し貼っていった。最後は、問題点と解決できそうな意見を整理した。

- 時間が足りなくてカードづくりまでに至らなかったが、持ち帰ってもらい、仕上げてもらえたらOKだと思う。
- A部会の第三者の意見を、新しい視点としてとらえてもらった。
- 以外と、話は途切れず、楽しくできた。
- 集まりでのイベントの話だと、打ち合わせになるだけで、どんな人を呼びたいかまでにはならないと思う。
- カードづくりの前段階が必要だと思う。
- 1回ではだめ。コミのイベントで年にサマーフェスティバルとか運動会とか年に3, 4つあるのでひとつひとつターゲットを絞ってカードづくりをする・・・それがこのカードづくりの良さだと思う1回ではめげない。懲りずにすることが大事だと思う。
- ワークショップの時間はたまたま90分にした。あっという間で「もっと時間がほしい」と感じた。
- 団体の合同ワークショップにおいて、お互いの団体の説明をしてもらい、団体内部の困りごとを再確認してもらうことが大切だと思う。
- 今回の2回のワークショップでは、対象団体に恵まれていた。こちらの目的が的確に伝わっていないと相手にされない。
- タイムスケジュールは大切だと思う。時間が足りない、時間がほしいと思うぐらいが調度いい。
- 鈴木委員の事前説明があったので、防災士会はうまくいったと思う。

(2)ワークショップの方法について

- 例えば、30代のサラリーマンと設定したときに、そういう対象者がカードを見たときに「自分でもOKだな」と感じて欲しい。
- 最初の設定を具体的にはっきりさせることが大切だと思う。
- 振り返りをしたときに、男性グループの話も聞きたかったという声があった。
- ワークショップの時に、防災士会のメンバーから愚痴がなかった。そのような前向きなメンバーが住んでいることを紹介すれば、「その地域に住みたい、活動したい」と思ってもらえるのではないかな。
- ワークショップは、常にはじめての人がいることが考えられるので、そのやり方は細かく示す必要がある。
- 活動団体にとって、第3者からの意見は有効である。複数の団体同士でワークショップをやれば、互いに第3者になって有効な指摘をしあえるのではないかな。
- 動画や、QRの作成方法を、レクチャーをするのもよいと思う。

(3)動画QRの活用について

- ワークショップの様子や団体等の紹介動画を作成するとよい。
- 例えば、防災士会の男性の振り返りが良かったのでその振り返りや、グループ紹介などの動画を撮影してQRコードで知らせられるようにしたらよい。
- 防災士会の後日談で話がでた。みんな、感動していた。会議での様子をQRコードで知らせられるようにしたら手っ取り早く伝わる。
- 地域の顔が見えるのは重要。スタッフのメンバーがわかるのはよい。

- ・欲しい人材や悩み事を込めたトラップカードは例題として挙げてよいが、白紙のものをその都度記入してもらうことで前進するし、新たな内容を引き寄せる。
- ・地域でも使えるような内容のものにする。
- ・YOUTUBE にあげて “カードづくり” 一覧で閲覧できるようにすればよいと思う。
- ・商工会でもお店について、QR コードを使って紹介している。
- ・志の高い、立派な人ばかりだと仲間に入りづらい。良いことばかりをアピールするのは難しく、受ける側は冷めた目で見えてしまうのではないか。
- ・動画もこらなくてよい。等身大の人の話を1～2分の動画にしてはどうか。5 分の動画になると見る気持ちにならない。
- ・60代以降は、動画をみるのは難しいかもしれない。
- ・総務部会のような中枢の部会には 70 代以上のベテランが多く、変化を嫌い「いつも通りでよいのでは」という話になる。
- ・コミュニティでもデジタルに切り替えている過渡期なので両方おさえる必要がある。
- ・いろんな形があってよいのではないか。
- ・これからオンラインじゃないといけない時代が来る。

(4)地域課題発見型とカードづくり型について

- ・表面と裏面でトラップカードをつくる日を分けてはどうか。
- ・カードづくりと準備会(説明会)を分けて別日にしてはどうか。
- ・今回の二つのワークショップでは、赤木委員や鈴木委員が事前にA部会の概要を知らせてくれたから、準備会が必要なかったのではないか。

(5)継続できるしかけについて(根付かせるため)

- ・防災士のメンバーは素晴らしかったので、もう一度同じメンバーでやってほしい。
- ・防災士会でいいのであれば、よく防災士会で集まるのでワークショップはできる。
- ・防災士会やさわやか北摂さんは、2 回目以降が気になる。
- ・今年は、コロナの影響によりイベント中止となって時間があるので、防災士会の活動だけでなく、来年の他のイベントについても検討できる。
- ・有効なカードの置き場所を設定することも重要である。
- ・自分のところでは、やることに追われていて、担い手が欲しいなど、いろいろ検討したいのに、そこに至るパワーがないので、新しいことを提案しても受け入れてもらえない感じがする。何年やっても同じだと思う。
- ・他のコミでのまちづくり委員会は、北小で気球を飛ばしているときけば、うちでもやりたいと声はあがる。
- ・コミでは、一括交付金による年間計画が決まっていて、なかなか新しいことができない感じがする。
- ・A部会がずっとついてまわるのは無理。各団体でルールブックを持って帰ってもらえると良いと思う。
- ・防災士会に例えると、防災士会が次の団体の指南者になればよいと思う
- ・どのように継続させるか。ずっと残さなければならない、「継続できるかもしれない」ではできない

のではないか。

- ・イメージとしては、まわしよみ新聞。誰でも使えるノウハウとして提供している。
- ・楽しいゲームやイベントならば、活用される。
- ・ロハスミーツも、集客方法や、行政との交渉方法などのノウハウを提供している。

(6)カードを置く場所

- ・カードをつくって、広報に載せる。
- ・商業施設においてもらう。

(7)広報誌や他の媒体について事務局と協議

- ・それぞれの団体がつくったトラップカードを期限付きなどで載せられるのか。
- ・(事務局)市のHPにおいては、参画協働課のスペースに掲載することはできる。
- ・(事務局)トラップカード(テンプレート)は、掲載可能だが、個別に作成されたカードは難しい。
- ・広報誌になると、紙面のページが多くなるし無理ではないか・・・それよりも、人がよく行く有名スーパーの方が現実的で効果的ではないか。
- ・合同イベントを実施すれば、メディアに取り上げられるのではないか。

(8)役割分担についての話し合い

◆役割分担

- ① ワークショップのやり方(カードづくりの説明) 赤木委員
→時間配分・プログラムの内容・会場セッティング・人数・役割分担・準備物
- ② 動画QRの活用 田中真委員
→A部会のワークショップの様子・団体等の紹介動画(コミなど)
- ③ 地域課題発見型とカードづくり型 名木田委員
- ④ 継続できるためのしかけ 三善委員
→合同イベントの開催
- ⑤ カードの置き場所 乾委員

(9)その他

- ・このカードづくりは、市の(仮称)地域人材マッチング事業に関係するのではないか。
- ・他市のまちづくり協議会の会長の話ではあるが、移住希望者に「すぐに決めるのではなく、週末に通って農業体験や行事などに参加してみてはどうか。」とアドバイスするという。そのような期間が最低1年は必要だという。
- ・移住希望者に幼稚園児の子供がいる場合など、幼稚園側や父兄に事前に移住者のことを伝えておいて、幼稚園の行事に体験参加させるという。そうすれば、まわりの父兄から声かけをされて、移住者は、気持ちよく過ごすことができる。それくらい丁寧な対応が重要なのだと思う。

3 閉会

事務局にて進行。

○事務局

全体会の開催については12月15日、午後7時からの予定。

また、次回、次々回のA部会の開催については、令和3年1月22日、2月12日いずれも午後7時から開催予定。